バックカントリースキーでオリエンテーリング

菅平高原スキーOイベント2001

木村佳司

覚えているだろうか？ 1998 Nagano の歓声を。
清水の速さが世界中の目を TV にクギ付けにさせ、原田や舟木の大ジャンプに日本中が湧いた長野オリンピック。
そのオリンピックの 1 週間前に冬のオリンピック入りを目指すスキーオリエンテーリングの国際大会が長野県菅平高原で開催された。あれから 3 年が経った、2001 年 3 月 17 日-18 日。

もっと気楽に雪上でのオリエンテーリングを

スキーオリエンテーリングを国際基準で開催しようとすると、実は膨大な手間がかかる。広いスキートラックを確保するためのピステマジンやスノーモービルが必要であり。これを操るスキルも必要となる。

国際大会というとこうした機材やマンパワーも何とか集めることが出来たが、ちょっとしたイベントではなかなか難しい。いや本来、オリエンテーリングというのはもっとお手軽に開催できるイベントではなかったのか？

お手軽に開催できるスキーO 大会というのはどういうものなのだろうか？

まず、ピステやスノーモービル等でトラックを作らなくても競技ができるようなテレインと時期を選ぶことである。

何の事は無い、今から 15 年ほど昔に長野県で行われていた形式のスキーオリエンテーリングなのである。

雪原を走る快感を 雪原を歩く快感を

このイベントは雪が固まってきた 3 月下旬に開催された。

1 日目は雪温度が低く、雪も締まっており、スケーティング滑走できる高速レースが可能となった。

考えてみて欲しい、テレインの全て方向に滑走可能な平らな雪原を。地図読み、そしてバックカントリーを駆け抜ける楽しみを。

そしてのんびり派には雄大な山々の風景と雪に覆われた神秘的な森林を。

2 日目の競技はワンマンリレー方式を取った。参加者も競技者もレースの進行状況が把握できており、とてもワクワクする展開になった。

成績はいずれも J-cup では運営に回っていた山田敦史がトップとなった。上位の結果は J-cup とは違う顔ぶれとなっている。

参加者は一日あたり 20 名ととても少ないイベントだったが、参加した人からは好評だったようである。

未知の野山を走破する・・・こんな魅力をバックカントリーでのスキーオリエンテーリングは秘めている。

Day1（3 月 17 日）

MA

1	山田敦史	青葉会	46:59
2	澤田晴雄	奥武蔵 SC	56:40
3	高原 進		57:18

WA

1	白鳥桂子	水篤刈	52:29
2	高橋美和	水篤刈	59:18
3	永井夕里子	OLP 兵庫	59:23

Day2（3 月 18 日）

MA

1	山田敦史	青葉会	58:38
2	澤田晴雄	奥武蔵 SC	59:27
3	宗形竜憲	二本松 OLC	60:13

WA

1	永井夕里子	OLP 兵庫	50:23
2	高橋美和	水篤刈	58:02
3	白鳥桂子	水篤刈	58:08

華麗なステップで大雪原を横切って行く山田敦史。

1 日目のテレインは 1m の雪に覆われたゴルフ場を使用した。スキーオリエンテーリングならではのゴルフ場の利用である。